

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和5年度 第4回高松市文化芸術振興審議会
開催日時	令和6年2月15日(木) 19時00分～20時00分
開催場所	高松市防災合同庁舎 3階 301会議室
議 題	(1) 高松市文化芸術振興計画に掲げる事業の取組状況について (2) 第3期高松市文化芸術振興計画策定の進捗状況について (3) その他、今後のスケジュールなどについて
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
出席委員	甘利委員、金川委員、鹿庭委員、北岡委員、島田委員（副会長）、多田委員、田中委員、橋本委員（会長）、三木委員、水嶋委員、若井委員 計11人 (欠席4人 青山委員、鎌田委員、木ノ下委員、林委員)
傍 聴 者	2人 (傍聴席4人程度を確保)
担当課及び連絡先	高松市文化芸術振興課 087-839-2636

審議経過及び審議結果
<p>会議を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。 審議会の公開・非公開について審議がなされ、公開の決議がなされた。</p> <p>(1) 高松市文化芸術振興計画に掲げる事業の取組状況について 令和元年5月に策定にされた「第2期高松市文化芸術振興計画」に掲げる事業の取組状況について事務局から説明し、次のとおり意見があった。</p> <p>【決算見込額について】 (委員) サンクリスタル学習の決算見込額はなぜ予算額より少ないのか。 課題に午後からの学習内容について検討する必要があるとあるので、学校側からの申込が少なくなって、このような決算見込となったのか。 (事務局) サンクリスタル学習では各小学校から昭和町のサンクリスタル高松まで、民間バスと市所有のバスを手配しており、今年度は市所有のバスの使用率が高かったため、予算額より決算見込額が少なくなっている。 また、御指摘の課題とは、サンクリスタル学習がサンクリスタル高松に入っている3館以外にも学校の要望に応じて、高松市美術館などの施設も見学できるスキームを持っており、その1つとして復元整備された桜御門を含む高松城跡を追加することを検討しているということである。 (委員) 午後からの学習の会場が外に移る際に学校現場が困ることとして、雨が降った際の昼食をとる場所が考えられるので、昼食をとる場所も併せて検討してもらいたい。</p>

(事務局)

御意見を担当課に共有する。

(委員)

市美術館エントランスホールにおける作品展示等の決算見込額は、なぜ予算額より少なくなっているのか。

(事務局)

今年度、高松市美術館が開館35周年ということで、エントランスホールで展覧会(観覧無料)を実施したが、その展覧会の費用が予算額よりも少なく実施することができたためである。

【学校巡回芸術教室事業について】

(委員)

学校巡回芸術教室事業は、どのような人が派遣されているのか。

また、規模はどの程度なのか。

(事務局)

学校巡回芸術教室事業に関しては、バレエやオーケストラを始めとした10種類のメニューを小中学校に選択してもらい、アーティストを派遣している。

規模としては、令和4年度の実績が最新のもので、20校に派遣しており、参加人数は約5,000人となっている。コロナ前の令和元年では21校に派遣し、参加人数は約10,000人となっている。

【芸術士派遣事業について】

(委員)

課題に効果を数値化できないとあり、理解もできるが、長い目で見て、エピソード等の記録を残すことや長期的に評価できる仕組みを模索して欲しい。

(事務局)

保育士の先生方や保護者の満足度は高いと伺っている。頂いた意見は担当課に共有する。

(委員)

アンケートは内的評価にしかならないので、外的視点で評価する仕組みを模索して欲しい。

【高齢者に対する文化芸術の取組について】

(委員)

民間の助成を活用して、アートを介した高齢者の健康増進に取り組んでおり、公的な目的のもとに実施しているため、自治体と連携して実施していくことが重要だと思うが、今後高松市の文化芸術の取組で実施する予定はあるのか。

また、高松市と共に実施するにはどのようにしたらよいか。

(事務局)

地域アーツカウンシルにおいて、高齢者とアーティストの組合せでアートを介した健康増進の取組も考えられる。

本市との連携に関しては、文化芸術振興課を窓口にして、そこから福祉部門に一緒になってつなぐことは可能である。

(2) 第3期高松市文化芸術振興計画策定の進捗状況について

第3期高松市文化芸術振興計画策定の進捗状況について事務局から説明し、次のとおり意見があった。

(委員)

パブリックコメントの件数が1件のみという結果であったが、どのように募集を

行ったのか。

(事務局)

広報高松や本市のホームページ、SNS で募集の広報を行ったとともに、紙媒体で、市役所の文化芸術振興課や情報公開コーナー、市民相談コーナー、総合センター、支所・出張所、各地のコミュニティセンターに設置しパブリックコメントの募集を行った。

(委員)

まだ聞けていない意見が必ずあると思うので、この計画の中でそのような声がないように、高松版文化芸術プラットフォームが使えるらよいと思う。

(委員)

文科省の学習指導要領の中で、図工、美術、音楽が削減対象となりがちだが、何とか維持している状況。

この計画では、文化芸術を見せて終わりのように受け取れるが、文化芸術の対話型鑑賞は学校全体の学力向上につながるような結果も出ているので、見せて終わりにならないように研究してもらいたい。

(事務局)

美術館においては、対話型鑑賞を始めとした様々な鑑賞方法の提案を学校の先生と連携して行っているが、十分でないところもあるので、今後も積極的に取り組んでいく。

(3) その他、今後のスケジュールなどについて
第3期高松市文化芸術振興計画の策定のスケジュールや次回の高松市文化芸術振興審議会の開催日程について事務局から説明を行った。

以上